第９回東郷地域協議会会議録（要約）

日　時　令和４年 12 月 12 日(月)PM7：00～9:00
場　所　新城市役所４階会議室
出席者　委員 27 名（内オンライン参加 21 名）　事務局４名

次第
１　会長あいさつ
２　報告
（１）令和４年度地域自治区予算の進捗状況について
３　議事
（１）各柱ごとに事業の振り返り
（２）多くの人を地域活動に巻き込むためには
４　連絡事項

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――――

１ 会長あいさつ

２ 報告

・令和４年度地域自治区予算（地域交通検討事業・多世代交流事業・関係人口創出促進事業・長篠設楽原の戦い歴史検定作成事業・東郷 PR 事業）の進捗状況について

３ 議事

協議会の会議録署名

・定数 30 人のところ 27 人の出席があり会議は成立している。
・会議録署名について、会長及び署名委員を２名指名し署名をお願いした。

（１）各柱ごとに事業の振り返り

地域計画の５つの柱ごとにグループにわかれ、現在進んでいる地域自治区予算事業の振り返りを行った。グループ討議終了後、各柱のリーダーから議論内容の発表があった。その後、グループをシャッフルし、新たなメンバーによりこれまでとは異なる視点で討議を行った。以下発表要旨。

柱１　暮らそう

(1 回目のグループワーク)

・アンケートを中心に進めて行く中で、少しでも多くの方が参加できるように、特に高齢者の方が家から少しでも出られるように、例えば料理教室などのイベントを公民館で開催したい。また、家から公民館等の会場まで行く足について、どうしたら少しでも足のない人がそのイベントに参加できるのかということを今後の問題として進めていきたい。

(2 回目のグループワーク)

・これから高齢者の免許証返納が増えていく中で、バス自体が家の近くまで来てくれたり、

タクシーを使って高齢者の方がサークル等に参加できるようなことをこれからは考えていくのが一番いい。新城市在住で 70 歳以上で免許証返納すると様々な特典がある。例えば、Sバスや高速バスの回数券、タクシー料金の助成券、交通安全啓発物品など。とても良いサービスだが、知らない人もたくさんいる。もっと活用できるようになるといい。

柱 2　守ろう

（1 回目のグループワーク）

・先月の防災キャンプに参加された方は、非常に好印象で来年度もやって欲しいという声があった。9 月に行った避難所運営(HUG)ゲームも単発でなく継続してやった方が良いと意見をいただいた。また、人を巻き込むために今後どのようにしていくかということで、誰でも気軽に参加できるような防災イベント等にしてみたらどうか。

・行政区同士の連携、防災訓練等ができたら良いのではということで、各地区の防災訓練等がマンネリ化しているので、とりあえず隣の地区等で連携を行い、今までとは異なる防災訓練ができたらという声が上がっていた。

（2 回目のグループワーク）

・防災についてメインに話が挙がった。HUG や防災キャンプなどは良かったのでまたぜひ企画して欲しい。

・各地区で行われている防災訓練については、やはり隣の地区と合同でやったらどうだということも挙がった。毎年じゃなくても例えば 3～4 年に 1 回だとかのペースでやるのも新鮮でないか。

柱 3　育てよう

（1 回目のグループワーク）

・基本的に 3 つの事業を全部団体さんに委託しているので、それぞれで実行していただくところについては、皆さんにお任せするしかないといったところ。唯一その実行団体でもある委員がグループにいたので、多世代交流事業について意見交換できた。今回、東郷学び学校では、自転車の大会である iRCTIRECUP の競技と同時開催だったので、スクールみたいなことよりもフェスティバルみたいになっていた。あの大きな規模で毎回開催するのは大変。あの規模でやるのも一つあるかもしれないが、公民館レベルでやれるような多世代交流とかも含めて、やりやすさとかも考えながら、みんなからの意見ももらいながら、もうちょっと生活に馴染んだレベルでやれるといいという意見が出た。

（2 回目のグループワーク）

・子育て世代交流促進事業だと、ママ友同士の繋がりだけでなく、今はシングルマザー、シングルファーザーもたくさんいて、そうでなくても実家に帰れない人は大変である中で、そういったところのサポートを地域協議会でどうやってやるかも含めて検討が必要。今の時代に合った必要な環境を整備していくことが大事で、子育てだけじゃなく生活困窮世帯もそうならないためにどうしてあげたらいいのかということをどうやって考えていくのか、今日の意見を実行団体に届けたい。

・多世代交流事業では、例えば消防士に憧れる子どもが多いのではないかという意見の中で、消防団ともっとコラボレーションできるように、放水などを子どもたちが体験したら

楽しいのではないか。最近では女性の消防団員もいる。半民半官の消防団とのコラボレーションのように、身近にある職業に触れられる機会があるといい。他にも林業農業のようにひょっとしたら東郷地区の足元にもっとネタはいっぱいあるのではないか。大人と子どもがそれぞれの楽しいことみたいなものを上手に導き出していくと、遊ぶというイベントだけじゃなく日常のものから、例えば耕運機はいつも見てるだけだが乗らせてくれるとか、そんなことも含めて何か企画してみると面白いのではないか。

柱 4　学ぼう

（1 回目のグループワーク）

・長篠設楽原の戦いの検定試験を来年度始めるにあたりその解説を作っている。検定問題は、毎回組替えながら設定していく。今年度は 3 月までに問題集の納品を予定していて、その表紙の作成について、今月の実行委員会の話し合いの中で話をしていきたい。

・来年度予算として、もっくる新城から歩いていけるような地図を作るということを建議させていただいたが、それについてもどの辺りを歩いてもらうのか少しずつ考え始めていく。バスの時間の調整もしながら、提案をしていかないといけないのでご協力をお願いしたい。

（2 回目のグループワーク）

・検定試験については、どのようにやっていくのか意見をいただいた。現地に来てもらい試験を受けてもらって、近くを散策してもらうなど、楽しんで帰ってもらえたらいいとのことだったので、検定試験の実施の仕方として参考にさせていただく。地図の方も、期待をしているという意見をいただいたので、頑張っていかないといけない。

柱 5　楽しもう

（1 回目のグループワーク）

・東郷 PR 事業については、来年度以降どのような形で進めていくかという方向性を出し、以後の年度につなげていく。来年度については、いわゆるディレクターという役割で企画部門でいい人がいれば参加していただくのがいいのではないか。来年度乞うご期待。

・スポーツバイクについては、話し合いの途中でリミットが来てしまったので結論は出ていないが、管理体制と支援体制をどうしていくかと、それをきちんと詰める必要がある。

（2 回目のグループワーク）

・新たな施設を作るというのはなかなか大変なことなので、既存の施設、例えば公民館で日頃どのようなサークル活動等がされているのかを一度集計したらどうか。そうすれば一般の方々に東郷地区ではこのような活動があるということを知ってもらうことができる。あわせて、東郷のホームページにも掲載して、楽しむの動機付けに利用していただいたらどうか。今後ホームページの委員会の方々にもご理解いただけるとありがたい。

(2) 多くの人を地域活動に巻き込むためには

（事務局説明）

・地域活動交付金の実績推移

・地域活動交付金からの自立を目指すためのアイディア

5 つのグループにわかれ討議を行った後、議論内容の発表があった。以下発表要旨。

グループ①

・若い人が手を挙げやすい環境をどうしたら作れるのかと最初に意見があったが、やはり 60～70 代の人が色々なことにチャレンジしていけるような魅力的な補助金になるといい。魅力的で使い勝手のよい補助金だということを PR していく。制度内容の検討というよりも、この補助金はどうやったら申請が増えていくのかという話の方に終始した。やはりPRをしていく、それから申請書類も出来たらもうちょっと減らせるといい。若い人たちは現在仕事していて、じゃあこの補助金を使って事業を行うとなるとなかなか動けない。今の 60～70 代は元気で、亡くなる年齢はもう 90 歳になってきている。なので、元気な 60～70 代の方たちにチャレンジしてもらえるような補助金になっていくといいのではないか。

グループ②

・いかにして自立を促すかというのは、非常に個々のケースが違うので難しい。もしするのであれば、理論構成をきちんとしていく。それは市の窓口となってやっていただかないとできない。ただ、交付金の内容について、これは交付金ではなく他のところで面倒見てもらえないのかということや、そもそも本来の地域活動かどうかということを事務局はきちんと審査して欲しい。地域活動団体というのは、今若い人が減っているので、仕事もあって別で行うとなると、なかなか共通的な組織ができるのかという難しさがある。また、資料 4 のアイディア②は、これは全く違う。東郷区長会というのはほとんど親睦団体で、このような制度はないので頭から消していただきたい。

グループ③

・自立をするというのは非常に難しい。自立が難しいから、この補助金に頼ってる団体が多い。また、交付金の縛りが強すぎる。例えば、草刈だとかそういうものでも人件費が出せれば、もっともっと自主的に動いてくれるのではないか。有償ボランティアみたいなのが必要。補助金の中で手当が出せるようにしたらいい。

○主な意見

会　長　有償ボランティアというのは可能なのか。

事務局　今の制度の中ではできない。ただ、資料 4 のアイディア①にもあったように、市として有償ボランティアや人件費とかの経費を認めている補助制度もあるので、例えば東郷地域でこのような補助金を作りたいということを、例えば地域協議会の方から提案があった場合に、地域活動交付金が出来て 10 年経ったが、そろそろ見直すタイミングに来ているというところもあるので、市として動いていくというような流れとなる。すぐにできるかと言ったら分からないけれども、まず声を挙げるということが第一歩かと思う。

会　長　我々が今そういう制度を市の方へ提案していく。それもひとつの方法だと思う。

グループ④

・既存の地域活動交付金とは異なる新たな自立型のメニューを作ったらどうか。地域の困りごとを

解消して利益を出すという視点で、例えば高校生にアイデアを募って、せっかく東郷でも構成員は 16 歳以上でその内 18 歳以上が 1 人いればいいとなったので、高校生が得意なことを子どもに教えるなど、例えば、サッカーが得意な人だったらプロになればお金を稼ぐわけだから、自分の得意なことで稼ぐ経験をしてもらったらいい、他にも自転車でもスケボーでも何でもいいし、自分が楽しむだけじゃなくて楽しみながら困りごとを解消してお金を稼ぐような。お金を稼ぐ喜び、お金を稼ぐことは汚いことじゃなくて、評価されているからこそお金になるということを、今子どもたちが得意な Youtube なんかでも、評価されているものが再生回数増えていて登録者数が増えているとなっている。自分たちがこんなことやったらいいのではないかということを、自分たちが持ち出しをせずに、地域協議会として出資してくれているところで、いろいろな経験ができるから、失敗したとしてもそれはそれでこのやり方駄目だったとか、これじゃ評価がされないんだなとか、みんなこれ困ってないんだとか、そういう経験になるのかもしれないけれども、結果儲かったとしてもいいということで、みんなに情報提供すると、高校生だけどこれアルバイトじゃないので、学校でも反対されないだろうし、地域のためにもなるだろうし、子どもたちはよりこういう活動を通して何か地域のことを考える機会になるかもしれないという、好循環になるばかりとは限らないが、今回の話し合いの短い時間では、みんなでわくわくしてビジネス教育にまで発展してしまうのではないかというような話が出て時間になった。

グループ⑤

・ボランティア活動に対してやっぱり報酬を出すべき。地域活動の交付や申請の手続き的に本当にできるかどうか。もっと簡素化すればできるかもしれないが、現状だとなかなか難しいのではないか。ボランティアの報酬だが、仮に草刈でもお茶と食事代は活動の中から出してもらえれば、活動に幅が広がってもっと活性化するのではないか。

○主な意見

会　長　いかにしてボランティアを有償化するということについては、色々な法律の壁があるけれども、その壁を何とか打ち砕いて新しい世界を開いていかないと、これ以上発展しないような気がする。

4 連絡事項

・地域協議会委員報酬及び費用弁償の支払い（令和 4 年 8～11 月分）
・東郷東小学校 6 年生の発表
・次回の第 10 回地域協議会（1/30）は対面会議となった。

【21:00 終了】